

話題の本

私は「中級国民」

橋玲氏の現在の関心事や直近のニュースへの見解については、氏のブログや雑誌の連載で伺い知ることができず。しかし、新書『サイズのヴォリューム』とは、一冊の本としまして、められると大変読み応えがあり、そして、必ず興味深い新しい知見やキラードが最新作に盛り込まれています。だから、氏の著作へのファンがずつとついてくるのでしよう。

本書『上級国民／下級国民』は三部構成で、『下級国民』の「下級国民」の誕生だけでなく、十分面白く満足の内容です。著者のおなじみの主張（という事実ですが）「日本はサラリーマンは世界で一番会社を憎んでいて、一番登場し、今も全状況は変わっていない。おちたのは、働かざる改革は、団塊の世代が現役を引退したこと、はじめて可能になった。」「という主張。平成で何が起きて、その根底に何があつたのか、よく分かります。そして、令和の最初の十年で起きることとは

：。国家や人類の課題は自分でコントロールできなくても、個人としていかに生き延びるか、幸福に生きるか。いろいろ考えさせられる内容です。

タイトルは商業的な必要性からか「社会の分断」を表す今風の挑発的な表現になっています。ただし、私はまだまだ「中級国民」の方が多数派だと思いたいのですが皆さんどうでしょうか？

SDGsって、

なんのこと？

二〇一五年九月に国連で採択された、加盟国一九三カ国全てが反対しなかった人類史上初の行動指針で、「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）」の英語の頭文字をとって、エスディーズです。

気候変動や紛争、貧困など様々な社会問題、環境問題をこのまま放置しては、やがて人類の存続も危うくなる、と危惧されています。そのような課題を解決するため誰一人取り残さず

に人類が存続するため、まとめられた十七の世界目標です。自分の仕事、生活、地域と何の関係があるの？と思われ、取り組んでいけることが十七の目標のどれかに関わっていると思いが至るようになる、理解の手助けになる二冊が『SDG入門』と『持続可能な地域のつくり方』です。

具体的な企業、自治体の取り組みも紹介されています。例えば、プラスチックを減らそう、簡易包装にしよう、買い物にエコバックを使う、食品ロスをなくそう、など。

ニュースや新聞で最近よく耳にする事柄もこの目標に絡んでいることもあり、世界全体で十二兆ドルの新規ビジネスを生み出す、とも見られています。

七月一日に富山県および、富山県南砺市がSDGs未来都市に選定されました（富山市は昨年選定）。全国で六十の自治体が選定されているうち、富山県は三自治体が認定されており、取り組みの表明が早いほうです。（県では、滋賀県や愛知県も選定）

十七の目標をさらに具体的に一六九のターゲットも設定されています。まず、どういうものか見てみる、だけでも、

母からの

メッセージ

樹木希林さんが亡くなられてからもうすぐ一年。喪主、也哉子さんの挨拶が忘れられず、手に取りました。

芸能界という特殊な世界に身を置き、個性的で破天荒とも言える両親を語るその口調は、淡々としても抒情的であり、周囲の音が一掃断されたか、と感ずるほど、深く心に響くものでした。

タイトル『9月1日』は命日ではありません。『死ななないで。どうか生きて』亡くなる二週間前、新学期が始まるこの日。生き辛さを感じていたくさんの子供たち、思いを馳せ、つづやかれたこの言葉は何事にも「もったいないから」を貫いた希林さんからの「命がもったいない」というメッセージ。さんはこの言葉を母から取り返さず、私には母から何を省みて、私は母から何を受けたのか、母の言葉や思いを感じながら生きていくだろうか。

亡き母を思い涙するよすが、母の心洗われ、穏やかでな

これもリテラシーか？

優しい気持ちになりました。

聖書には「女性は教会でしゃべってはいけない」と書いてあります。本書『書き換えられた聖書』は、ホントか？本書『書き換えられた聖書』に、その表記はあり、キリスト教の聖典である。本に書かれた聖書に、だれも書き換えていない。キリスト教の聖典である。本に書かれた聖書に、だれも書き換えていない。キリスト教の聖典である。本に書かれた聖書に、だれも書き換えていない。

